ガイダンスカウンセラーの挑戦 4

養護教諭によるコーディネートの実践

福岡県宇美町教育委員会学校教育課指導主事
長しのぶ

文部科学省は、「児童生徒の教育相談の充実について（通知）」で、不登校・いじめ等の児童生徒に組織的に支援・対応するために教育相談コーディネーターを中心とした教育相談体制を構築することが必要であると述べている。また、「生徒指導提要」では、心の問題を身体症状で訴える児童生徒が増えている中、教育相談の組織に占める養護教諭の存在と役割は大きくなっていると述べている。

教育相談組織の重要な役割を担っている養護教諭は、その専門性と保健室の特性を生かして、児童生徒がかかえる心の問題を早期発見・早期対応を行っている。養護教諭は日常的にSC・SSWと連携して組織的対応を行い、必要に応じて外部関係機関につなぐことも可能な、教育相談のキーパーソンである。その養護教諭が、ガイダンスカウンセラーの資格を持ってコーディネートに取り組んだ。

1 早期発見のための情報収集と整理（「先手必勝会議」）

いじめ・不登校等の児童生徒の心の問題を長期化・深刻化させないためには、その兆候を早期に発見することが重要である。養護教諭は、毎日の健康観察で児童生徒の健康状況、欠席黒板（毎朝、教職員によって欠席・遅刻・早退者の氏名と理由が記入される黒板）による児童生徒の動向、保健室来室状況による児童生徒の心と体の様子等の情報を集約することができる。これらの情報に、学校が実施している生活アンケート・いじめアンケートやQU等の実態調査の情報とを合わせることで、気になる、気にかけなければならない児童生徒をリストアップできる。

このリストを元に、支援の必要な児童生徒を絞り込む会議が『先手必勝会議』である。検討が円滑に進むように、養護教諭は、**表1**に示す一覧表を作成し、関係職員と情報共有を図る。その際、大切にしていることは、学級担任からの正確で客観的な情報を得ることである。健康観察の結果は、保健室で集約しているが、実際は、学級担任が行う健康観察をまとめているにすぎない。より正確な情報を集約するためには、体調の不調を正直に報告できる学級の温かい雰囲気や、児童生徒の心と体の不調を読み取る学級担任の力量が不可欠である。また、欠席黒板も正確さが求められる。理由の明記、遅刻・早退の時刻の記入はとても重要で、この変化で児童生徒の心の変化を把握できる。したがって、学級担任をはじめ全職員の協力なしでは、児童生徒の動向は把握できない。健康観察や出欠の状況がとても重要であること、観察のポイント、

表1　不登校・不登校傾向　配慮が必要な生徒一覧表

不登校・不登校傾向　配慮が必要な生徒一覧表　　令和○年６月　授業日数　４２日

不登校レベル	S	全欠　連絡が取りにくい
	A	ほとんど登校できていない。連続で欠席が続いている。連絡は取れるが
	B	欠席が多く、登校できても、遅刻・早退、別室登校等で対応し、教室復帰には課題がある
	C	登校はできているが、心配な要因を持っている

緊急度（支援会議）	1	拡大ケース会議
	2	校内ケース会議
	3	学年会
	4	本人と面談

No	年組	氏名	性別	不登校レベル	欠席	遅刻	早退	別室登校	不登校指数	SC SSW	状況	課題・気になる点	緊急度	日程	担当	今後の対応（検討後、記入）
1	1の1	I・A	女	C	3	6	0		6.0		小6、保健室登校 姉（高2）、中学時不登校 非承認群	怪我なことにつまづき、登校を渋ることがある。	4→3	今週	A 先生	
2	1の2	G・S	女	C	15	5	5		20.0		骨折による入院・通院 不満足群	入院・通院による学習の遅れへの対応が必要では…	4→3	今週	A 先生	
3	2の1	Y・M	女	B	7	24	0		19.0	SC面談（本人）	小6、不登校 要支援群	最近、登校時刻が遅くなっている。	4→2	来週調整	B 先生	
4	2の2	N・R	男	B	5	25	10		22.5	SC面談（母親）	登校渋り 本年度より情緒学級に移籍 役害行為認知群	友達とのトラブルが増えている。	4→2	来週調整	B 先生	
5	3の1	K・I	男	S	42	0	0		42.0	SSW	小6秋より完全不登校 兄（サポート高1）中1の2学期より完全不登校　QU未実施	保護者としか話せない。	1	SSWと調整	C 先生	
6	3の2	E・M	女	C	0	2	2		2.0	SSW	中1ほぼ全欠、中2、修学旅行後、登校が続く　満足群 兄不登校	無事をしていないか、疲れがたまっていないか	4→3	今週	D 先生	
7	3の2	S・R	男	A	21	9	0	○	25.5	SC面談（本人）	鬱症状治療中　（○○病院） 要支援群	最近欠席が増えている。別室での学習に気持ちが向いない	4→1	SCと調整	C 先生	

児童生徒の心身の問題の把握は全職員で取り組んでいること、そして、貴重な情報をいただいていることに感謝していることを伝えるように心がけている。

このようにして集約した情報は、状況を整理し緊急度や対応レベルを生徒指導委員会で検討し共有している。会議に参加できないことが多いSCやSSWには事前に、情報や意見をいただいておくとさらに効果的である。不登校・不登校傾向の対応が必要な児童生徒の状況を確認するだけではなく、つまずきそうな兆候のある児童生徒を把握することに重点を置いている。それが、『先手必勝会議』の目的であり、不登校未然防止の一手を打つチャンスを逃さないことが重要である。

2　早期対応のための情報の整理と分析（チーム支援シート）

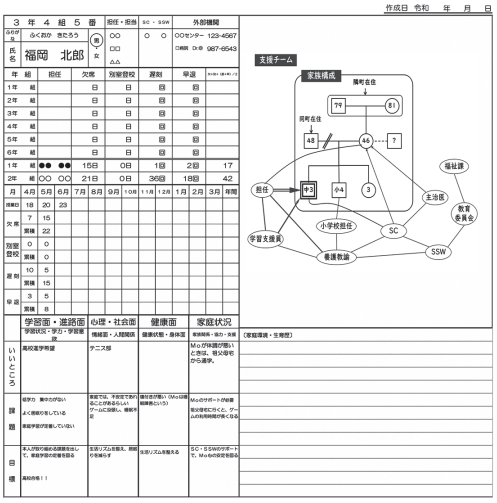

図1　チーム支援シート

支援する際には、適切な課題分析（アセスメント）と目標設定、支援チームづくりが重要である。支援チームのメンバーが情報を共有するためのチーム支援シートが必要である。

図1のように、欠席状況やこれまでの経緯、これからの対応を記入するシートに、家族構成（ジェノグラム）を中心に社会関係図（エコマップ）いわゆる支援チームを外側に示し可視化することで、担当者が明確になり、具体的な支援策が提案できる。このシートは関係者で回覧し、随時、対応や経過を記入していく。また、記録をふりかえることで、対応を再検討し、計画的に進めることができる。特に、行事の前には、状況を確認し、行事参加をきっかけに改善につながるように具体的な支援を計画的に仕組んでいくことができる。

また、SCやSSWとの情報共有も一目瞭然なので、打合せの時間短縮にもなる。養護教諭が持つ学校医や地域の医療機関等のリソースに加え、SC・SSWが持つより専門的な外部機関との連携はとても有効である。

このシートを活用する際、『虫の目・鳥の目・魚の目』の三つを大切にしている。

『虫の目』　児童生徒の現状を詳細に把握し、アセスメントすること。問題点を深く掘り下げ具体的支援につなぐ注意深い視点である。

『鳥の目』　本人をとりまく状況やこれまでの経緯を俯瞰（ふかん）してみること。どこからアプローチするか、どのような支援が必要か、どのようなリソースがあるかを把握できる。『虫の目』で分析した情報をつなげ、新しい切り口を見つける広い視点である。

『魚の目』　先を見据えて、変化に応じてどのタイミングで行動すべきかを見極める流れを感じ取る時間軸的な視点である。

この三つの目で、児童生徒を中心に据え、その家庭をとりまく社会資源の役割を明確にし、ネットワークをつくり、実践していく。

まとめ

ガイダンスカウンセラーである養護教諭は、保健室を活動の拠点とし、アンテナを高くし、情報を収集・整理・分析し、軽微な変化を見逃さない力、支える支援者をつなげる力、そして支援のタイミングを見極める力を磨かなければならない。そして、困難さをかかえている児童生徒に寄り添い支援していかなければならないが、その児童生徒の身近で、渦中の一人である学級担任や担当教師・保護者の葛藤や心労を理解し、支えていくことが、チーム支援を継続させ成果につなげるポイントであると考える。

参考・引用文献

・文部科学省「児童生徒の教育相談の充実について（通知）」二〇一七年。
・文部科学省「生徒指導提要」二〇一〇年。
・河村茂雄編著『教育相談の理論と実際（改訂版）』図書文化、二〇一九年。
・早樫一男編著『対人援助職のためのジェノグラム入門』中央法規、二〇一六年。